

## 亀田西小学校区

平成 20 年 12 月 9 日 (火) 午後 7 時から  
江南区役所 302 会議室にて  
参加者：23 名

## みんなで考えた 地域の不安と地域活動の課題

### 水 害

- ・少し雨が降ると家の前が冠水する所が多々ある
- ・雨が降ると下水があふれる箇所がある
- ・道路冠水が心配

### 情 報

- ・町内で話はしているが、情報発信が不足
- ・自主防災でやっているが、災害時に情報が伝わらない心配がある

### 避難の問題

- ・地震時の 600 名の児童のパンニック防止対策と避難の問題
- ・避難所が周知されていない
- ・買い物客が避難所に来て混雑しそう

### 高齢者の避難

- ・要支援者の担当を決めたが訓練していない
- ・停電の時、認知症のお年寄りの記憶が役に立った。
- ・ひとり暮らしの人の家の電気がつかない時は心配

## Aグループ



## Bグループ



### 地 盤

- ・最近宅地開発された地域で住宅が傾いている

### 避難所

- ・避難場所の見直しが必要
- ・亀田第5保育園は浸水しやすい場所にある
- ・第5保育園の近くに4階建ての民間高齢者施設があるが、避難所にするには難しい

### 昼間の問題

- ・昼夜間人口比の地図のとおり、昼間は留守宅が多く人が少ない
- ・いざという時に昼間でも駆け込める場所を知りたい

### 組 織

- ・コミ協と自治会との連携強化が重要
- ・役職等の後継者の育成が必要
- ・自治会では、防災、防火、防犯の三防一体を考慮すべき
- ・人が少なくても稼働できるシステムが必要

### 水 害

- ・町内で、「ここは海拔0m」という表示があればよい
- ・亀田駅以外に高いビルが少ないので洪水の場合避難が不安

### 防 犯

- ・街灯が少ない
- ・セキュリティ過剰(となりが分からん)
- ・最近子どもを狙った犯罪も多く危険でパトロールの強化が必要

### 中学生の力

- ・中学生年代の力の発揮を

### 交 流 (お節介になろう)

- ・隣人同士の絆の再構築を
- ・もっと子どもとの交流機会を
- ・親同士も子育てを中心に交流を
- ・隣近所の人の家族構成も知るべき
- ・隣人同士で災害時の避難についてもっと話し合いを持つべき
- ・多世代間の交流が必要

## Cグループ



## Dグループ



### 災 害

- ・大雨時には必ず水があふれる
- ・排水路工事の不備なのか
- ・水害時マンホールから出水
- ・地盤が弱く地震が心配

### あいさつをしよう

- ・最後は“人”である
- ・学校、地域などの連携と避難訓練など行事の活性化が必要
- ・家庭と地域内でのあいさつが必要

### 中学生のパワーを借りよう

- ・中学生は地域の宝
- ・中学生を防災訓練に参加させたい
- ・小学生はあいさつをするが、中学生はあいさつをあまりしない

### 行 政

- ・行政との役割分担の明確化
- ・行政の地域密着度
- ・行政からの財政支援が必要
- ・町内会長で地域は違う

## 第1回ワークショップにおける意見とりまとめ

### 有明台小学校区（古くからの住宅と商業施設が混在する人口密集地）

- ・有明台小学校区は、新潟市内でも高齢者・単身者の多い地域であり、災害が発生した場合の高齢者対策を中心に議論が進みました。
- ・地域内で、古い建物が多く狭い道も多いことから地震災害に対する不安が多く出されました。また、新潟地震の経験から、地盤の液状化に対する不安を話す人もたくさんいました。
- ・地域活動の点からは、アパートや寮に住んでいる人との交流がないことを課題として挙げていました。
- ・その他、停電や道路交通など、生活に関連した不安に関する意見が出されました。

### 松浜小学校区（工業地に隣接する住宅地で外国人比率が比較的高い地域）

- ・松浜小学校区は、地域内での標高差が大きく、大雨が降ると高いところから低いところへ一気に水が流れるため、低いところに住んでいる住民の方から、平成10年の8・4水害を例に出して水害が不安であるとの意見が出ました。
- ・堤防が古くなっているため、津波が一番不安であるとの意見がありました。松浜小学校区は、海と川に囲まれたゼロメートル地帯であることをはっきりと認識したほうがよいとの意見もありました。
- ・外国人とのコミュニケーションをとることが難しいという課題が挙げられていました。

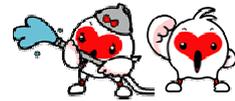
### 亀田西小学校区（古くからの住宅と新興住宅が共存する郊外住宅地）

- ・亀田西小学校区は、全体的に標高が低く、水害に対する不安が多く出されました。
- ・亀田西小学校区は、9～10月に地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための地区別フォーラムを実施していたためか、「あいさつをこころがける」、「中学生を地域の活動に巻き込みたい」など地域活動を活性化させるための具体的な議論が進みました。
- ・学校の先生からは、①校舎も体育館も耐震性に関して不安がある、②児童・生徒の安全な下校に関して不安がある、③教職員は地域外に居住している人が多く休校日に災害が発生した場合対応できない可能性が高い、という意見が出されました。避難所は必ずしも「安全な」場所ではないということを知ってほしいということでした。

# 新潟県防災立県戦略の紹介

新潟大学災害復興科学センター

田村 圭子



## 背景

- 新潟県は広い県土を持ち、これまでもさまざまな自然災害に見舞われてきた。自然災害から県民の生命と財産を守ることは、新潟県政の根本的課題であり、これまでもさまざまな取り組みが行われてきた。
- こうした中、7.13豪雨災害、中越大震災、18年豪雪災害、そして中越沖地震が発生し、その対応に追われた。これらの災害は、新潟県にとって初めての経験ではなかったが、災害の規模が大きく、かなりの被害を受けた。
- これら災害を経験した新潟県は、さまざまな教訓を生み出し、この教訓を基に防災対策の変革に取り組むこととした。



## 防災立県推進ワーキング

- 「防災立県」の具体的な実現について、県下の各関係者の意見を広く集め、県全体の創意による実効性のある「施策の枠組み提言」を行うことを目的として、県民、地域及び企業の代表、市町村及び県の実務担当者の34人で構成される「防災立県推進ワーキング」によって検討を行った。
- 平成18年10月から10回のワークショップを開催し、各ワークショップで出された約2,000を越えるアイデアを整理して、施策の基本的な柱となる12項目を提案する。



2

## 防災立県推進ワーキングメンバー

尾身 誠司	NPOセーフティネットぼうさい・代表	小海 崇史	新潟県十日町地域振興局・主任
加藤 廣文	NPOしまみらい振興機構・理事	金子 弘	新潟県情報政策課・主査
金井 利郎	金井度量衡(株)・役員	青柳 正俊	新潟県震災復興支援課・政策企画員(※18年度)
島本 ひろみ	主婦	岡村 美知夫	新潟県震災復興支援課・政策企画員(※19年度)
菅野 浩衛	団体役員、加茂市23区・区長	松田 英世	新潟県害者スポーツ大会課・課長補佐
中川 渉	応用地質(株)・社員	小林 保夫	新潟県農林水産部農業総務課・副参事
渡邊 喜夫	無職	野呂 大祐	新潟県産業労働観光部産業政策課・主任
坂井 宏子	にいがたGIS協議会・会長	関根 義雄	新潟県農林水産部治山課・副参事治山係長(※18年度)
曾我 幹男	有明台校区自主防災会・総務部長	西田 隆	新潟県農林水産部治山課・副参事防災係長(※19年度)
外石 榮子	加茂市民生委員児童委員協議会・会長	伊与部 稔	新潟県農地部農地建設課・副参事
外山 優子	OFFICEとやま・代表	山郷 和久	新潟県土木部監理課企画調整室・政策企画員(※18年度)
谷田 健吾	日本赤十字社新潟支部・事業係長	清田 仁	新潟県土木部監理課企画調整室・政策企画員(※19年度)
早川 博	(株)コメリ秘書室・ゼネラルマネージャー	渡邊 昇	新潟県港湾整備課・副参事建設防災係長
吉田 直樹	朝日酒造(株)・取締役製品部長	山井 哲也	新潟県教育庁財務課・主任
涌井 清次	(協)三条工業会	佐々木 巨倉	新潟県新潟振興局企画振興部地域振興課・主任
松屋 賢治	新潟市市民生活部危機管理防災課・対策係長	町屋 悟	新潟県長岡地域振興局・副課長(※18年度)
小嶋 洋一	長岡市市民生活部危機管理防災課・総括主査	小幡 利永	新潟県長岡地域振興局・計画専門員(※19年度)
石塚 衛	三条市総務部行政課防災対策室・主事	清水 浩	新潟県上越地域振興局企画振興部総務課・主査
高橋 隆明	津南町総務課・主査	西山 隆士	新潟県佐渡地域振興局企画振興部総務課・主任

3